



平成26年8月号

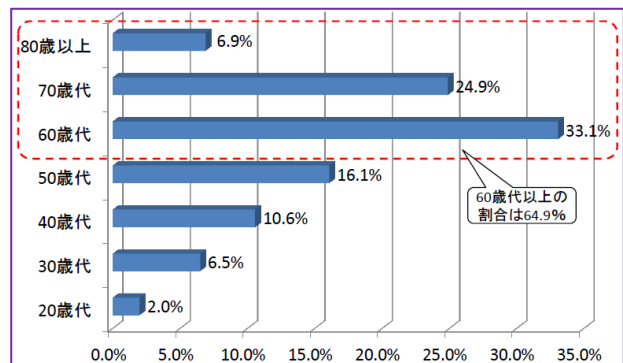
世代間の資産移転を促進する動き

☆☆子供「NISAって、なーに？」



平成26年1月1日より、NISA（少額投資非課税制度）が始まりました。NISAは、専用口座を通じて株式や投資信託等に投資した場合に、その投資から得られる配当や売却益などについて非課税とされる制度です。通常、約20%の税率で課税されるものがゼロになりますので、大きなメリットです。現在この制度を利用できるのは20歳以上で、非課税となる投資枠は毎年100万円までです。

金融庁発表によれば、制度開始の1月から3月までで、650万以上のNISA専用口座が開設され、総買付額は1兆34億円にもなります。ただし、年代別では60歳代以上が口座数の60%、買付額の65%を占めており、世代の偏りがあるのです（右表）。



そこで、若年層への資産移転を促すため、“子供版”NISAの創設が検討されているようです。2016年開始をめぐりとして、NISAの適用範囲に0歳～18歳を加えることとしています。大きな違いは、子供版NISAには18歳になるまで投資資金を引き出すことができないという引出制限がかかることです。導入に合わせ、従来の“大人版”NISAの年齢を20歳以上から18歳以上に引き下げ、非課税投資枠を現在の年間100万円から200～300万円に引き上げることが検討されています。

ただし、注意しなければならないのは、大人が子供版NISAで投資した金額はあくまで贈与ということです。毎年110万円までの贈与には税金がかかりませんが、子供版NISAに大人が100万投資し、その他に10万円超の贈与があった場合、贈与税がかかります。また、大人版・子供版問わず、NISA口座で生じた損失については、たとえ他の銘柄で利益が出ても相殺（損益通算）ができないというデメリットがあります。

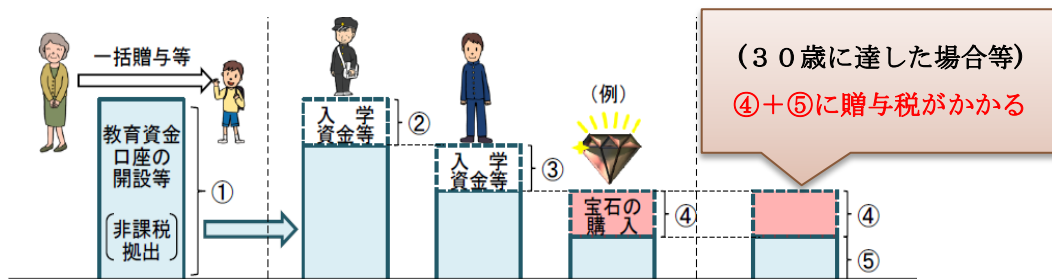
（裏面へ続く）

(表面より続き)

☆☆教育資金として子や孫への資産移転

平成25年4月1日から平成27年12月31日までの間に、直系尊属(祖父母など)から30歳未満の個人(子や孫など)に教育資金を贈与した場合、1,500万円までの金額を非課税とすることができます。

ただし、贈与を受ける子や孫が30歳に達するなどしたときに贈与資金の余り(教育資金贈与額から教育資金支出を差し引いた残額)がある場合には、その残額については贈与税が課されることになり、税務署に申告することが必要です。1,500万の枠いっぱいにも贈与しても全額使わなければ、結局は高い税率の贈与税がかかってしまうのです。また、この制度で非課税となるのはあくまで教育に関する支出に限るとする資金の用途制限があります。宝石を子供に買い与えたとしても、その支出分は非課税とはならないのです。



☆☆実は・・・教育資金にはもともと税金がかからない？

この制度も反響が大きく、6月までに5,000億円超の贈与があったとされ、適用期間を3年程度伸ばすこと、資金用途を拡大することなどが検討されているようです。話題性十分ですが、そもそも祖父母から子や孫に教育費を贈与した場合等には非課税となることは、意外と知られていないかもしれません。小学校や中学校入学の都度贈与したとしても、非課税なのです。

では、前述の1,500万円限度で非課税となる制度のメリットは何かというと、「一括で」非課税の贈与ができるということです。一括で贈与してしまえば、贈与する祖父母に万が一のことがあっても非課税となります。その都度贈与すれば十分ということであれば良いですが、年齢が高いのですぐに相続対策しておきたいという場合、一括贈与非課税制度は有効なのです。

なお、子供版 NISA と異なり、教育資金の贈与では都度でも一括でも毎年の110万円の暦年非課税枠を別途使うことができます。

☆☆制度のご利用は計画的に

子供版 NISA、教育資金贈与非課税制度拡大のいずれも検討段階であり、詳細はこれから決まっていくものですが、メリット・デメリットがあります。節税も大事ですが、まずはライフプランをしっかりと考えて、それに合わせた制度を利用することが適切といえそうです。

(文章：石島慎二郎)

秋のご旅行にいかがですか？ 神様の集まる出雲大社とその周辺

内藤久子



初夏に、山陰地方へ行って参りました。
その山陰地方を少しだけご紹介したいと思います。

出雲大社（島根県出雲市）

おおくにぬしのおおかみ
大国主大神をお祀りする大社。



本殿

大国主大神は、「だいこくさま」です。

（七福神の「大黒天」とは、正確には別の神様です）
旧暦 10 月は神無月といわれますが、出雲大社に神様が
集まり、神様がお留守になるからです。
一方、出雲では神様が集まるので「神在月」といいます。
全部の神様が集まるわけではないですが、800 万の神様
が集まり神議が行われます。

参拝作法は、一般的には「2礼2拍手1礼」ですが、出雲大社では「2礼4拍手1礼」が
正式な作法となります。**その作法通りをお願いをしてきました。御利益がありますように…。**

御本殿と並んで出雲大社の大きな見どころになって
いるのが「かぐらでん神楽殿」。長さ 13m、周囲 9m、重さ 5ト
の大注連縄はトップクラスの大きさです。神楽殿は婚
礼なども行われます。この神楽殿を本殿と勘違いして、
こちらにのみ参拝をして、本殿には参拝せずに帰って
しまう観光客もいるほどだそうです。

行ってみるとその迫力になる程と思いました。



神楽殿

足立美術館（島根県安来市）



近代日本画を中心とした美術館で約 1500 点を所蔵
されており、特に約 120 点を数える横山大観のコレク
ションは著名で、常時 20 点前後を展示しています。

この庭園、米国雑誌『ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・
ガーデニング』の日本庭園ランキングで、初回から
11 年連続で庭園日本一に選出され続けています。

**庭園の中に入ることは出来ませんが、館内からの景色
だけで充分堪能できました。すばらしい庭です。**

もと いせ このじんじや

元伊勢籠神社（京都市宮津市）

伊勢神宮の内宮ないくうに祀られている「天照大神」、外宮げくうに祀られている「豊受大神とようけのおおかみ」が、天照大神が伊勢神宮へ遷られる前4年間共に祀られていました。

伊勢神宮と同様の唯一神明作りで、高欄上の「五色ごしきの座玉すえたま」（青、黄、赤、白、黒）は、伊勢神宮御正殿と元伊勢籠神社以外には拝ませられないものとされています。ゆっくり拝ませて頂きました。



座玉

天橋立（京都府宮津市）



ひっくり返すと…

日本三景の一つ「天橋立」。もともとは元伊勢籠神社の参道として発祥しました。

いくつかの伝説があるようですが、その1つをご紹介します。神代の昔、天にあった男神「伊射奈岐大神いざなぎのおおかみ」が地上に祀られていた女神「伊射奈美大神いざなみのおおかみ」のもとに通うため、天から大きな梯子を地上に立てて通っていましたが、一夜にして梯子が倒れてしまい、それが天橋立となったと伝えられています。

「股覗き」で有名な場所で天橋立ですが、股の間から覗くと、龍が天に昇っていくように見えるとか。

また、着物姿の女性が着物を捲り上げて股覗きする訳にはいかないですから、「袖覗き」と言われ、袖の下から覗いてみるというものもあります。

現地に行ってしまうと、案外、恥ずかしさはなく股覗きが出来ました。

鳥取砂丘（鳥取県鳥取市）

日本三大砂丘の一つ「鳥取砂丘」。南北 2.4km、東西 16km に広がり、立ち入ることが出来る砂丘では日本最大の砂丘です。

1955年には国の天然記念物に指定され、2007年には日本の地質百選に選定されています。

あまりにも広すぎて、奥まで行き戻ってくる自信がなく、近場をチョロチョロして来ました。



他にも見所はたくさんあります。

たくさんの神様の集まっている神在月に、神様の近くへお出掛けになってみてはいかがでしょうか？